

令和七年 高尾山中興開山六百五十年

令和6年12月号

# 高尾山報

紅葉の錦が広がる、高尾山の秋



# 法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(150)

氷は水面を封じて  
聞くに浪なし

雪は林頭に点じて  
見るに花あり

(菅原道真「菅家文章」)  
氷は水面に蓋をして、  
波の音は聞こえてこな  
い。雪は林に点々と降っ  
て、花が咲いたように見  
える)

足早に過ぎ去った秋に  
変わって、今度は力強い  
冬將軍がやって来たよう  
です。二十四節気の「大  
雪」(今年は十一月七日)  
を迎えて、全国から続々  
と雪の便りが届きます。

冒頭の漢詩では、今年  
も残り少なくなった冬ざ  
れの景色と、間もなく訪  
れるであろう春を予感さ  
せる「雪の花」(雪を花  
に見立てた様子)が歌わ  
れています。この時期に  
は、赤い実を付けた南天  
にも目が留まりますが、

その上に雪が降り積もつ  
たら、まるで紅白の梅の  
花びらのように見えるで  
しょうか。

雪は晴れた日にも風に  
舞います。遠い山から風  
に乗って運ばれてくる雪  
は「風花」と呼ばれ、真つ  
青な空から花のように降  
り注ぎます。積もること  
なく消えゆく風花は、こ  
の時期ならではの儂く美  
しい光景です。

冬景色をめぐっては、  
弘法大師空海(七七四  
〜八三五)も、次のよ  
うな和歌を残されてい  
ます。

雪といひ  
氷と水の  
変はれども  
同じ流れの  
山川の水

(「弘法大師全集」)  
(雪と言ひ、氷・水と言ひ、  
名前も形もそれぞれ違ふ

けれど、元を辿れば同じ  
山中から流れ来る水であ  
るよ)

この歌の前には、詞書  
として「迷悟不二の心  
を」という歌の意味が付  
されています。「迷悟」は  
そのまま「迷いと悟り」を  
意味し、「不二」は「二  
つと無いこと」を表しま  
す。先月号で取り上げた  
お大師さまの和歌「生  
死即涅槃の心」(生と死  
の苦しみを、そのまま悟  
りの縁となる)という教  
えとも近い境地が詠われ  
ています。この「雪と  
いひ」の歌では「雪・水・  
水のように一見別々に見  
えるものであっても、仏  
さまの眼から見ればそれ  
は対立を超えて「一つの  
もの」ということを解き明  
かしていらつしやるので  
しょう。

この和歌と似た言葉に  
「雨霰雪や氷と変われど  
も落つれば同じ谷川の  
水」という諺があります。  
「最初はさまざまに異  
なっても終わりは同  
じ」という喩えから、「人



南天の実に積もる雪が花のように見える

間には貧富の差があつて  
も、死ねばみな同じ」と  
いう使われ方に派生して  
いきました。

なお余談ですが、  
「雪」「氷」「水」の三つ  
の中で、一番難解なのは  
どれでしょうか」という謎  
かけがあります。お分か  
りになるでしょうか。答  
えは「水」だそうす。

にも残されています。例  
えば、神奈川県秦野市  
には「弘法山」(標高約  
二三七メートル)という  
山があります。お大師さ  
まが、この地で修行をし  
たとの伝承があり、周囲  
には観音山・地藏入など  
の仏教的な地名も見られ  
る神聖なお山です(「日  
本歴史地名大系」参照)。

地名では、同じ神奈川県  
にある川崎市「大師  
町」が有名でしょう。こ  
の地には、真言宗智山派  
大本山の一つである川崎  
大師平間寺があります。  
付近には「大師本町」「大  
師河原」という町名も残  
されており、「説」では、  
平間寺の御本尊である弘  
法大師像を漁夫がこの浦  
で引揚げたことによつて  
「大師河原」と呼ばれる  
ようになったとか。お寺  
の建立の由来と深く結び  
ついた地名です。

川崎大師平間寺は靈験  
あらたかな寺院として、  
古くから数多の人々が訪  
れてきました。その中か  
ら江戸時代の参詣記を少

し垣間見てみましょう。  
歌人であり僧侶でも  
あつた白蓉軒桂豁(二七  
八三?〜一八三二)とい  
う人物に「大師河原紀  
行」と題する紀行文があ  
ります。四十二歳の厄年  
に差しかかった桂豁は、  
文政六年(一八二三)三  
月十五日に、厄除けで名  
高い川崎大師へと向かい  
ました。旅の行程は次の  
ようなものです(詳しくは  
拙稿「白蓉軒桂豁の川  
崎大師参詣記」参照)。

巳の上刻(午前九時  
台)に江戸を出立した桂  
豁は、季節柄、桜の花を  
見やりながら、さつそく  
二首の和歌を詠み、赤坂  
では新緑を愛でながら進  
み、溜池では清らかな雨  
に濡れた浮き草に春風が  
吹き渡る風情を眺めまし  
た。さらに、西久保八幡  
神社(港区虎ノ門)では  
幣を奉納し、赤羽橋付  
近の浄土宗大本山増上  
寺(港区芝公園)では  
山桜を眺め、三田の春日  
神社(港区三田)におい  
ては、神前で余生の安樂

を祈つています。  
高輪からは海岸線を進  
み、人々が長閑に釣りを  
する姿や、鮫洲の子供達  
が干潟で貝拾いをして楽  
しんでいる様子を書き留  
めました。鈴ヶ森(品川  
区南大井)では老松、大  
森村(大田区大森)では  
梅の若葉や山吹の花に目  
が留まります。  
蒲田村(大田区蒲田)で  
は、憤ましく咲く菫を見  
つめ、六郷(大田区六郷)  
では遥かに光り輝く玉川  
の水を見やつています。  
川崎宿に入ると、田ん  
ぼの中にある古寺の桜を  
眺め、平間寺に辿り着い  
たのは末の刻(午後二  
時頃)でした。大師堂を  
伏し拝み、弘法大師の面  
影を仰ぎながら、我が身  
の厄払いを祈っています。  
そして元来た道に戻り、  
暮れ方の気色を眺めなが  
ら、家に帰り着いたのは  
酉の下刻(午後六時台  
でした。  
(「大師河原紀行」)  
「大師河原紀行」には、  
厄除けのために川崎大師

## 浅見家子育観音法要厳修

十一月三日(日)

桂豁は、大師堂の前で  
歌を詠みました。  
はるばると  
辿り越し身は  
仰ぐかな  
高野の山の  
法の誓ひを

(「大師河原紀行」)  
(はるばると辿り着いて仰  
ぎ見ることよ。高野山で  
全ての人々を救済しよう  
と誓いを立てたお大師さ  
まの姿を)

桂豁は、川崎大師を開  
かれた尊賢上人に思いを  
馳せながら、高野山を開  
かれたお大師さまを伏し  
拝んでいます。全国に広  
がるお大師さまの遺風  
は、元を辿れば高野山か  
ら吹き寄せる誓願の風で  
あるのでしょうか。

さて、お大師さまのお  
姿は、全国の地名や山名





百貨店内を練り歩く



京王百貨店のますますの発展を祈る

京王百貨店新宿店開店六十周年記念

十一月三日(日)

# 京王線沿線文化探訪

京王百貨店新宿店は、今年十一月一日に開店六十周年を迎え、「新宿店開店六十周年記念京王大誕生祭」が開催されました。その一環として「京王線沿線文化探訪」が京王線沿線とともに歩み発展し続けるをテーマに行われ、八王子市の日本遺産「霊気満山 高尾山」を代表して高尾山薬王院の山伏と八王子芸妓衆が参加しました。

京王新線改札口前から高尾山の山伏を先頭に京王百貨店の仲間一紀会長と南佳孝社長も一緒に練り歩き、京王百貨店一階正面の入口特設会場が開店六十周年を迎えます。その発展を願う佐藤貫首導師のもと記念法要が行われました。その後は芸妓衆による祝いの舞が披露され、一層の盛り上がりを見せておりました。

# 高尾山もみじまつり 安全祈願祭厳修

十月二十六日(土)

秋の気配が徐々に感じられ、秋風が吹き始めた高尾山登山電鉄清滝駅前にて、高尾山を訪れる方々の安全を祈り、「高尾山もみじまつり安全祈願祭」が開催されました。

もみじまつりを主催する八王子観光コンベンション協会の方々をはじめ、八王子市長初宿和夫様や八王子市議会議長鈴木玲央様、高尾登山電鉄株式会社、高尾山商店会の関係者が参列し、ケーブルカー清滝駅前において柴燈大護摩供が厳修され、来山者の安全や皆様の諸願成就が祈念されました。

その後、佐藤貫首による辻説法が行われ、高尾山の歴史や修行について語られ、訪れた大勢の方々が開き入っていました。



来山者の安全を祈り柴燈大護摩供が厳修された



佐藤貫首による辻説法

# 閉瀑式厳修

十月三十一日(木)

高尾山の南北の中腹には、蛇滝及び琵琶滝という滝行を行う水行道場があり、毎年十月三十一日には両道場において、一年間安全に修行できたことを感謝する、閉瀑式が行われております。



蛇滝(左)と琵琶滝(右)で行われた閉瀑式

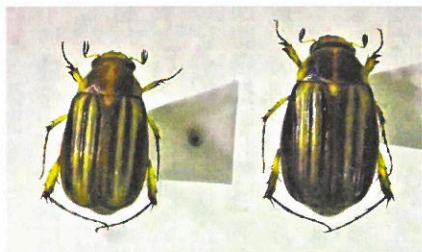
## 高尾山の昆虫

### コヒゲシマビロウドコガネ

182

コガネムシの仲間にはビロウドコガネという一群がいて、総じて小型種であり体型も色彩も地味であることが知られています。

よく似た種が多く見分けるが難しい中、コヒゲシマビロウドコガネは前胸には一對の太い暗緑色の紋があり、上翅は黄色い地に明瞭な濃緑色のストライプが入り他種との区別が容易です。



七・九ミリ程の大きさで、葉上や樹皮下で見つかりますが、小さな種ですので見つけるのは簡単ではありません。

灯火で見つかることが多く、高尾山でも灯りに集まった個体に幾たびか出会っていますが、あまり多くない印象を持ちます。

産地により色彩が異なる傾向があり個体変化も多様で、特徴である濃緑色の縦筋が消失することもあるようです。

高尾山の乾燥化およびLEDの普及により、見かけることが少なくなっています。

そんな中、今夏久しぶりにエレガントな姿を確認でき、旧友に出会ったような懐かしい気分になりました。

(標本・小畑 裕 撮影・文松島 孝)



# 高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

60

## 十八世秀神18 『風土記稿』と『図会』

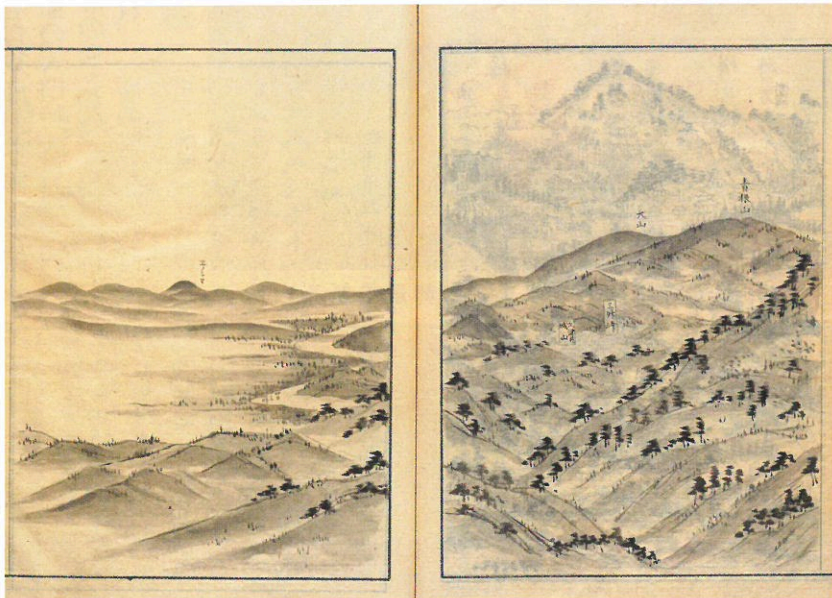
徳川幕府の官撰地誌

『新編武蔵風土記稿』(一八二二「多磨郡之部」成立、以下「風土記稿」と略す)には八王子千人同心塩野適齋・植田孟縉らが編纂に携わっているが、孟縉はほぼ時を同じくして自ら地誌の編纂を試みた。『風土記稿』に先んじて『武蔵名勝図会』(以下「図会」と略す)を脱稿したのが文政三年(一八二〇)のこととされる。

孟縉は何故に内容がほぼ重複する民撰の地誌編纂を志したのか。共編による官撰の地誌では表現しきれない、孟縉独自の叙述を試みたものと考えられるが、そこには民撰ならではの高尾山像を見出すことができよう。

表参道から黒門へ

『図会』は行基開山の俊源中興という高尾山の略縁起から始まり、記述は山麓から表参道を道なりに進んでゆく。『風土記稿』が山の地勢、宗教施設、山内地理と整序して、まさに地誌然とした構成なのに対し、旅客の視線に立った名所記的な構成が印象的である。「清滝」について「参詣の人この滝にて垢離す」と具体的な行動を記述し、そこが信仰の場であることを示す。清滝前の池のほとりにある小祠は『図会』が「弁天祠」とするのに対し、『風土記稿』は天満社とする齟齬を来した部分もある。清滝の由来を刻んだ石碑は植田氏造建であるとし、全文



山上からの眺望(『武蔵名勝図会』国立公文書館デジタルアーカイブ)

を収録しているが、滝造立を発起した植田魯石は孟縉の二代前の当主である。「不動院」についても「参詣の道俗この所に憩いて破子など携えてここに用ゆ」と、やはり信仰の地としての風景描写があり、一般への流布を意識したものだろう。

「布流滝」には水量が少ないので代わりに清滝を造営したという記述があるが、祖父の事績に係わることでもあり、孟縉が独自に知り得ていた情報かもしれない。尾根筋が上がって、「金毘羅社」については、『風土記稿』がここから枝分かれする

道筋の記述と景観に終始しているのに対し、『図会』は信心の村民が建立したという由来や茶屋のあることを記している。続く「浄土院」の記載で、『風土記稿』が位置を「有喜寺より十九丁」とするのに対し、『図会』は「金毘羅より二町」としている。このように、図会は目線に沿った構成が再確認される。ここでも、『図会』は東屋のような建物があつたが二、三十年前に発心者が仏堂を造建したという来歴を記す。八王子城址を望む位置にある「城見桜」を『風土記稿』は記していないが、「望墟軒」というこの地の別名を挙げ、儒学者石島正翁の漢詩を掲載している。現在の蛸杉と伝えられる「一本杉」についても雑木の中に一本だけ杉があるためという由来を記す。続く「薬師の御手洗水」は眼病に効験ありと参詣者が樹根の窪みの清水で目を洗うとする。『風土記稿』にはこうした信

仰習俗に係わる記載は少ない。一方、『風土記稿』に記される、この道沿いの妙見祠・浅間祠・弘法大師石像の記載は『図会』にはない。

### 広庭から山上の伽藍へ

現在の四天王門の位置にあった黒門に至る間、『風土記稿』同様に大杉並木の記載は見られない。挿絵に杉の植生自体は描かれていて、やはり現在よりは高い位置に道筋があつたようだ。当然、道幅は今日とは比べるべくもないだろう。

黒門を入った右手にあった唐銅製五重塔について『風土記稿』は塔基の石垣にはめこまれた銘板の文面を収録しているが、『図会』にはない。『風土記稿』は寛延二年(一七四九)の縁起の原文(漢文)を末尾に全文掲載しているが、『図会』は漢文の難解な長文の収録にはこだわらなかつたようだ。広庭崖側にあつた蓮華院は眺望のよさが述べ

られる。「金亀山は雲間にかび」と江の島を望見する記述が整合するので、右ページの挿絵に描かれた眺望はここからのものなのかもしれない。

仁王門、薬師堂、大日堂、護摩堂に続いて鐘樓の記載となるが、ここにも『風土記稿』が収録する漢文の鐘銘はない。その一方、武蔵国川越(埼玉県川越市)の人西村常福による願掛けの事跡を刻んだ寛政七年(一七九五)の石碑の文面は双方収録されている。信仰習俗に係わる内容ゆえだろうか。

飯縄権現社の項で触れる三月二日の祭礼は、単に御影供とする『風土記稿』に対し、『図会』は「大師の御影供」とし、「飯縄神祭礼として十二座神楽法楽あり」と具体的に「裏坂」は、本社裏から大師堂前に降りる現在の道筋と同じである。「葉王院」の項では「鼠口留秘符」という家財を損じたり、蚕の生育に害

をなす鼠の出没を防ぐ護符にふれるが、やはり『風土記稿』ではこうした信仰習俗はあまり意識されていない。一方、寺室について『風土記稿』は七度返りの刀、盗賊耳付板、東寺羅城門古瓦などの由来を詳細に記す。

『図会』は名前の羅列のみで、参詣者が実際に目にすることはないであろう。寺伝の古文書は双方とも模写を収録し、後北条氏との深い関わりが印象付けられる。

### 雨宝陵と琵琶滝

記載は「雨宝陵」へ移る。前号で述べた通り、当時は黒門の前から琵琶滝に降りる道筋があつた。その琵琶滝の上部に位置する小丘が雨宝陵である。

雨宝童子が祭祀される『図会』では弘法大師の作とする。名称から雨乞いの習俗と係わり、水源地に対する原始信仰に発すると考え得るが、水にまつわる伝承の多い弘法大

師空海とも結びついたものだろう。残念ながら樹木が繁茂して、現在では小丘の存在は認めがたいが、岩屋大師が同じ前沢川(琵琶沢川)の水系に祀られているのは偶然ではなからう。「琵琶滝」は「峻巖峙立」と形容され、滝上の雨宝弁天の祠は麓の池辺へ移設されたこと記されるので、先の池のほとりの小祠の名称の齟齬については、『図会』の記載に説得力がある。孟縉が編纂当事者の中にあつても、より事情に通じていたことを推察させる。また、滝の音は琵琶を弾する響きありという形容の一文も入る。

最後に挿入される「三宝鳥」と「颯風(ムササビ)」は『図会』に特有な記事である。『風土記稿』では冒頭の地勢で存在を述べる程度で三宝鳥、すなわち鳴き声から「仏法僧」と呼ばれる霊鳥社(群馬県)、京都の

松尾山、御岳山(東京都青梅市)にも生息する旨を書籍や伝聞、自身の見聞から考察している。今日高尾山のアイドルとも言えるムササビは、家禽や鳩に害を及ぼす害獣という誤った認識がされている。挿絵があるくらいなので特記すべき存在ながら、夜間に樹上を飛び交うその生態が未知なるが故か、恐ろしいものと認識されていたようだ。

注 現在の大本坊入口の黒門とは異なる。



ムササビの挿絵(同)



# いけばなの心 ⑤7

華道教授 佐藤 宗明

今回は趣向を凝らした花材を用いた作品をご紹介します。緑色の実のように見える『アップルキッズ』という植物をご存じでしょうか。多肉植物『カラコンコ』の一種で、その実に見える部分は実は花なのです。その独特な魅力に

惹かれ、これを生かして生けた作品がこちらです。赤い『ヘリコニア』と細く優美な線が美しい『トクサ』を取り合わせ、生花新風体の花形で仕上げました。『アップルキッズ』は個性的ですが、『バラ』や『ユリ』のような華やかさではなく、その

良さを引き立てるために他の花材を控えめにしました。暑い地域が原産の『アップルキッズ』や『ヘリコニア』も、栽培技術や流通の発展により、冬でも楽しめるようになりました。本年も作品を通じていけばなの魅力をお届けできたことを嬉しく思います。来年もどうぞよろしくお願いたします。良いお年をお迎えくださいませ。



花材：アップルキッズ、ヘリコニア、とくさ

立飛グループ創立100周年事業

## 立山立飛歌舞伎特別公演 お練り

十一月十七日(日)

十一月二十一日から四日間に渡って開催された、「立山立飛歌舞伎特別公演」に先駆けて、百八十三名の一行が立川駅近くのサンサンロード約四百メートルを練り歩きました。

高尾山薬王院の山伏が法螺貝の音と共に先導して、出演される片岡愛之助さん、市川中車さん、中村吉太郎さんをはじめとする七名の歌舞伎俳優が人力車に乗り登場し、沿道では詰めかけた大勢の観客が声援を送っており、立川立飛歌舞伎の開幕を盛り上げる華やかなひと時となりました。

立川立飛歌舞伎では、演目の一つとして公演される新作舞踊「玉藻前立飛錦米」では高尾山が舞台となりました。



高尾山山伏を先頭にお練りが続く

### おはなし散歩道

## チュウ助と高尾山

湯沢町 富樫 あい子

冬休みです。

りんはチュウ助と父の実家がある八王子の浅川にきました。

浅川には、おばあちゃんが一人で住んでいます。久しぶりに、おばあちゃんが高尾山に案内してくれました。

終日、お香の薫る本堂に太鼓の音が鳴り響く中、お参りしました。

チュウ助は境内にある露座の天狗様の大きさに呆然として見上げています。

「スッゲー 大きい！」

その姿に、りんとおばあちゃんが微笑んでいます。

するとおばあちゃんが、「天狗焼きをお土産に買って帰ろうかね」

「買った！」

「りんちゃん、チュウ助と先に行つて買ってよ」

チュウ助、行こう！」

十二月、気持ちのいい冬ばれです。二人は意気揚々と天狗焼きの袋を掲げてきました。声をそろえて

「買ったよ〜」

うれしそうです。「天気もいいし裏高尾の山道を歩いて帰ろうね」

「山道は、久しぶりだわ」時々、冷たい風が森を吹き抜けていきます。空には多くの鳥が飛んでいます。

「チュウ助、見てごらん」

おばあちゃんが目で追います。りんが言います。

「チュウ助、怖くない？」

「別に……」

「高尾の鳥は優しいからチュウ助なんか狙わない」

りんが力強く言います。そんな話をしながら歩いていくうちに浅川の町が見えてきました。

チュウ助がいきなり、りんにしがみつきます。「どうしたの？」

「ミャ〜」ネコの鳴き声？

りんが辺りを探したら草むらで黒白の子ネコがふるえています。

「捨てネコ？」

アツ、りんは抱き上げようとした手をひっこめました。チュウ助がブルブル震えているからです。

おばあちゃんは、ネコアレルギーなので首を横に振っています

「困ったわ？」

りんは、仕方なくネコが入っていたと思われる段ボール箱にネコを入れて、山から降りてくる人々に、

「捨てネコです。貰ってくださいませんか？」

と呼びかけました。

『可愛いけど、ごめんね』『マンションだからね』『飼いたいけど、私も歳でね』とかダメな理由ば

かり言つて通り過ぎていきます。

「おばあちゃんもチュウ助も先に帰つていいよ。私ももう少し頑張る！」

「ぼくりんちゃんという。何か勇気が出てきた！」

チュウ助は、指を丸め、OKサインを出しました。

「じゃ、天狗焼き食べよ」

おばあちゃんが袋を開けた時、町の方から幼い男の子が二人走ってきます。

「子ネコを見せてください。白黒ですか？」

「もちつてくれるの？」

りんが聞きました。

「居た！ ありがとう！」

男の子はへたりこみ、箱から子ネコを抱きかか

えて「ごめんごめん」と抱きしめています。

「あのね。親戚の家で生まれた子ネコを僕が貰いに行つて、帰りに友達と会い話している間に箱から逃げ出したんです」

「そうなの、良かったね。ところで何年生？」

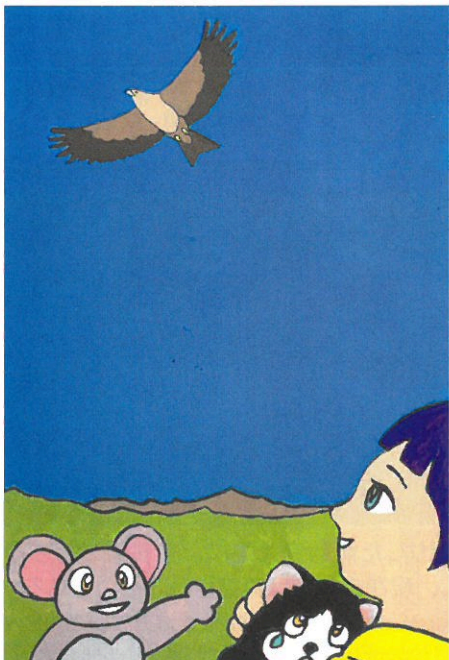
「一年生です」

元気のいい二人です。「父と小学生に成ったら飼うと約束してたの」

飼いが表れて皆、ホッとしました。男の子に抱かれた子ネコが「ミャ〜」となきました。うれしそうな鳴き声です。

(おしまい)

(挿し絵・小出 茂)





# 観音菩薩の宗教

84

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 如意輪観音（その22）

『三夢記』が伝える親鸞第二の夢は、正治二年十二月（二〇〇）に見られている。聖徳太子が親鸞の寿命を告げた第一の夢から九年後、親鸞数えの二十八歳の年に見た夢である。一月後、年が明ければ十年目を迎え、親鸞は二十九歳となる。第一の夢で親鸞は、聖徳太子から寿命が「十余歳」と告げられていた。これを「十九歳よりあと十年」と捉えようと、親鸞はこの十年、不安を感じていたに相違ない。第一の夢からまもなく十年目となる親鸞は、死なずに第二の夢を見ることになる。当時の親鸞は修行僧であったが、第二の夢は比叡山の無動寺に籠った時に見たものである。

修行時代の親鸞は比叡山において、堂僧という僧侶としては低い地位にあった。兵部卿平信範の日記『兵範記』の仁安二年（一一六七）九月二十四日の条に、法勝寺念佛法会のこと記されているが、これに参加したのは導師のほか僧綱十二人、凡僧二十一人、堂僧十二人とあり、堂僧は引声・行道・合殺・錫杖などの声明を担当した。すなわち堂僧は「念仏法会における音楽部門を担当した合唱隊といったものにすぎない」（石田瑞磨『苦悩の親鸞』三二二頁）

このように社会的・個人的背景のもと、親鸞は比叡山の南にある無動寺の大乗院に籠った。比叡山は東塔・西塔・横川の三区画よりなり、それらに含まれる十六谷の総称を延暦寺という。したがって延暦寺という名の独立した寺院はない。このうち無動寺は東塔無動寺谷の塔頭で、その中に大乗院がある。無道とは不動の別訳で、原語は動かぬことを意味するアチャラ (acala) といい、不動明王を指す。その名の通り、無道寺の本尊は不動尊である。無道寺谷は千



親鸞がお籠りした無動寺大乗院。信長焼き打ちなどで焼失し、現在の堂宇は再建されたものである。  
<https://tr.foursquare.com/v/無動寺-大乗院/557cf627498e2bd7df98c5c1?openPhotoid=557cf6c8498e42e0aa88bc92>

い一般僧侶である凡僧のそのまた下の僧であった（同）。石田瑞磨の解釈によれば、親鸞は「学問研鑽を目標にした学侶ではなく、法会の席に連なつて音楽的な効果をもり上げる役目を担った、名もないただの平僧とみて間違いない」く、親鸞が「精神的な貧乏状態に追いこまれていた」と推測されている（同）。

こうした社会的・個人的背景のもと、親鸞は比叡山の南にある無動寺の大乗院に籠った。比叡山は東塔・西塔・横川の三区画よりなり、それらに含まれる十六谷の総称を延暦寺という。したがって延暦寺という名の独立した寺院はない。このうち無動寺は東塔無動寺谷の塔頭で、その中に大乗院がある。無道とは不動の別訳で、原語は動かぬことを意味するアチャラ (acala) といい、不動明王を指す。その名の通り、無道寺の本尊は不動尊である。無道寺谷は千

日回峰の聖地でもあり、回峰行を満行した阿闍梨が住持する伝統がある。昭和時代に二度の千日回峰行を満願した酒井雄哉阿闍梨（二九二六〜二〇一三）も無道寺谷宝珠院の住職になっていた。このように密教、殊には不動信仰と密接な関連を有し、神道的山岳信仰の霊場である無道寺に、後に阿弥陀仏の専修念仏を説く親鸞が籠ったことは刮目すべきである。無道寺は親鸞の得度の師・慈円が千日入堂して行法を行なつた寺で、大乗院はその本坊である（石田、前掲書、三三三頁）。慈円は天台座主を四度に互つて勤めた高僧で、和歌を能くし今でも百人一

首の「おほけなくうき世の民におほふかなわが立つ杉に墨染の袖」（出典『千載和歌集』）で知る人も多からう。治承五年（一一八二）、親鸞は九歳にして京都の青蓮院で院主であった慈円のもと出家得度している。慈円が行法した大乗寺は、親鸞にとつても幼児より縁の深い寺であった。『高田正統伝』によれば、親鸞は「同年、東塔無動寺ノ大乗院ニマシマシテ、十月朔ヨリ三七日間、根本中堂本尊薬師

善逝ト、山王七社ト、毎日夜参詣シ、丹誠ノ御祈願アリ」（龍谷大学所蔵本、第二冊、一〇頁。句読点とルビは金岡による。 <https://da.library.ryukoku.ac.jp/view/210140/2>）とあり、親鸞は三七日、すなわち二十一日間、毎晩、薬師如来や日吉大社の神道の神々を参詣し、心を込めた祈りを捧げたという。この三七日の密行を満願したと「解しうる」日に（石田前掲書、三四頁）如意輪観音の夢告を受けた。これが冒頭に記した『三夢記』所伝の第二の夢である。同書に「叡南（「えなみ」とも）無動寺在大乗院」として以下のようにいう。叡南とは比叡山の南の意である。「如意輪観自在大士、告命して言はく。善き哉、善き哉。汝の願、將に満足せんとす。善き哉、善き哉。我が願も亦、満足す（如意輪観自在大士告命言。善哉善哉。汝願將満足。善哉善哉

我願亦満足）」上記の観自在とは玄奘による新訳の漢訳語で、鳩摩羅什による旧訳の観音と同意である（拙稿「観音菩薩の宗教」④）。大士はサンスクリット語マハーサットヴァ (mahasattva) の漢訳語で、原語を音写したのが菩薩である。すなわち如意輪観自在大士は如意輪観音菩薩を指す。告命は呼びかけて告げることの意味、ことに仏菩薩が導きのための言葉を伝えることを表す。これらを踏まえて上記を現代語訳すれば、次のようになる。「如意輪観音菩薩が（親鸞に）告げておっしゃることは、『善いことだ、善いことだ。そなたの願いは今にも満ち足りようとしている。善いことだ、善いことだ。私（如意輪観音）の願いもまた満ち足りる』」

親鸞は第一の夢で聖徳太子に余命宣告され、恐らくは不安の十年を過ごした後、二十一日の密行に入った。その満願の日如意輪観音が夢に現れ「善かつたね、もうすぐ汝と私の願いが満ちて、浄土に往けるよ」と告げたのが第二の夢である。親鸞はこの十年、余命について不安や失意、比叡山における低い地位に関する不如意を抱えていたが、厳しい修行を経て、如意輪観音菩薩より満願の夢告を受けた。これに先立つ第一の夢で聖徳太子は余命宣告とともに、「命終りて速に清浄土に入らん。善く信ぜよ、善く信ぜよ、真の菩薩を」とも告げていた。その意は、死ねば極楽に往けるということであるから、第二の夢でも如意輪観音から満願の語をもつて今生の終わりを告げられたことになる。ポジティブな夢告である極楽往生の約束は、肉体の死と同義のネガティブな宣告でもあった。これについて石田瑞磨は、「浄土往生が約束され、それが『まさに満足』しよう

としているとなれば、一方ではまことにありがたいう告ともいえるが、それはまた死の間近に迫つたこと宣告であり、「この夢告は往生確約の喜びなどとはほど遠い、残酷な死の宣告としか、うつらなかつたのではないか」（同書、三六〜三七頁）と推測している。こうした夢告をした如意輪観音は、親鸞において、また当時の思想界においていかなる意味を有していたであろうか。注目すべきは、聖徳太子が救世観音の化身であり、救世観音が如意輪観音と同一であるとする説である。この二つの等号により、三体が一致する。すなわち聖徳太子如意輪観音である。すでに見たように（「観音菩薩の宗教」⑨など）、聖徳太子救世観音説は『聖徳太子傳曆』（九二一年）において百済人が太子を救世観音として礼拝する形で述べられている。その淵源は法隆寺東院の資

材帳（七六一年）に、夢殿の本尊救世観世音像を「上宮王等身観世音菩薩木像」とするにある（井上一稔『日本の美術5―如意輪観音像・馬頭観音像』至文堂、一九九二年、四二〜四三頁）。さらに院政期の成立とされる『東大寺要録』には、聖宝（八三二〜九〇九）が聖徳太子の後身であるとする記事が現れる（同、四三頁）。聖宝は真言宗小野流の始祖で、当山派修験道の始祖とも伝えられる真言宗の僧侶である。その後、守覚親王（一一五〇〜一二〇二）の『御記』において聖宝は如意輪の化誕とされるに至る（同）。これらを典拠として井上一稔は、「太子如意輪観音説は十二世紀末には確実であった」としている（同）。

第一の夢で太子の夢告を受けた親鸞は、第二の夢で太子と同一の如意輪観音より、謂わば第一のお告げの続編を告げられたことになる。



**■ 榊原真一さん**  
今年二月三日で八十九歳

とにかくゆっくりゆっくり登ってくる。そして途中数回の休憩をとりながら週四〜五日登ってくる。そして必ず山頂まで

**健康登山者投稿**

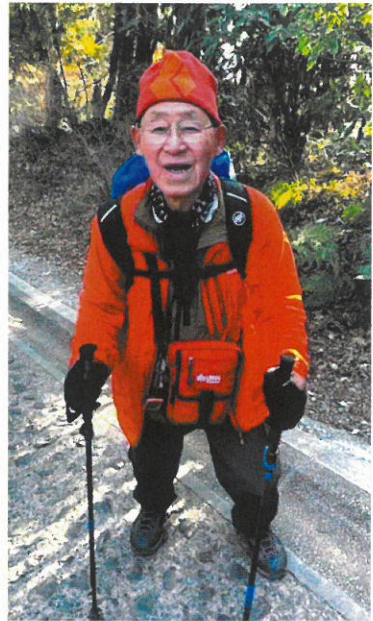
**元気!! 元気!! の健康登山者**

福田 潔

人生百年時代

実際二〇一九年の統計でみると、日本人の平均寿命は男性八十一歳・女性八十七歳と一九五五年の統計と比べると、二十歳ほど伸びている。

ただ、健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)は男性は七十二歳・女性は七十五歳と意外と低い。高尾山を継続して登られる方達は他の人に比べ、健康で元気な人が多い。そんな中で二人の男性を紹介しよう。



榊原真一さん

登られる。穏やかでいつもニコニコ笑顔。「今日も元気ですね!」と声を掛けると、必ず笑顔で「元気じゃない!」の応えが返ってくる。微笑ましくて、お会いした日はいつも幸せを感じさせる。

リュックの中に珍しいお菓子を詰めてきて。「このお菓子美味しいよ!」と皆に振る舞う。頂いた方も足を止め、暫く会話が弾む。それが榊原さんの至極の一時なのだろう。

**■ 森田徹男さん**  
今年一月十日で九十歳

ほぼ毎日奥様と一緒に登ってこられる。とにかく元気で、奥様が後から追いかけて「おーい森田待って!」とお孫さんに植木屋さんの仕事を引き継いで、今では毎日の健康登山が日課のようだ。昨年は四国八十八ヶ所にも出かけたと聞く。

いつもご夫婦ともニコニコ。奥様は出会うと「今日も登ってきました!」とハイタッチする。

二人とも九十歳は通過点。百歳目指して登られると思う。いつまでもお元気で! 私も二人に



森田徹男さん

はあやかりたいものだ。私も八十一歳を過ぎた。今年五月三十日心臓に異変(心房細動の重症)、少し歩くと息切れ、目眩がした。医者からは「八十歳過ぎたら我が病院では手術はしないが、福田さんは手術に耐える体力有り」と言われて、七月二十二日に手術敢行。

今は週四回以上高尾山に五〜六人で「ダベリながら」登っている。九月十七日〜二十日にかけて青森くまなく探索の旅にも行って来た。未だ見ぬ新しい場所に夢を求めて、人生満喫したい。

昨年は鎌倉寺巡り(全百四十五ヶ寺制覇)、東京・山梨の桜名所ベスト

テン巡り、入笠山、三つ峠、八方尾根などの花探索に美術館巡りなど。

今年は四月東北(角館、大湯村桜ロード、白神山、五能線、弘前公園など)多摩霊場八十八ヶ所巡り(全制覇)、東京六地蔵巡り、静岡桜巡り、白馬五竜などを敢行。

そして高尾登山、ジム通いも週四〜五日等は続けるつもりです。残された時間を健康に、そして充実した毎日をして! そのためには健康でいつまでも! そして良き友に囲まれていつも笑顔でいられること「日々幸せ」を感じている、それも健康登山のおかげである。

# 高尾山 季節散歩

**和風月名**  
**春待月**  
「はるまちづき」

冬本番に向かう十二月に「春」の言葉は違和感がありますが、旧暦のお正月は現在の立春(二月四日頃)の前後に迎えるものでした。

そのため新年は、春の始まりでもあったので、春を待つ月となり、この異名があります。

**今月の風物詩**  
**葉牡丹**

おめでたい花である牡丹に因んで名付けられた葉牡丹は、花ではなくキャベツなどと同じアブラナ科の植物です。

江戸時代に日本に輸入され、品種改良を重ねて日本に根付き、冬の季節に色鮮やかな葉を持ち、寒さに強く、また安価なことからお正月飾りとして人気です。

# 一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

三十五段 **出来る時には出来る 焦らず時を待つ**

「急いで事はし損ずる」と昔から言われております。焦れば焦るほど冷静さを失い、普段なら出来ることでも出来なくなってしまいます。たとえ悪い状況下であっても、好転するまで精進努力を積んで焦らず機会を待ちましょう。

**「高尾山健康登山の証」のお勧め**

年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々が参加されており、期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますと、健康登山者限定の記念品と交換できます。

帳面……………七百円  
スタンプ……………百円



帳面……………七百円  
スタンプ……………百円



**季節の絵手紙**  
**「高尾の紅葉」**

八王子市 石井 雅子

山すべに  
燃えたつほどの  
紅葉にも  
飯糰の御威  
ほの見えはけり

高尾山



**「日常を楽しむ」** 中野区 田島 聖恵

健康登山者投稿作品



# 御護摩修行のすすめ

皆様の諸願成就を祈願する

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。大切に持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。



## 御朱印のご案内

御朱印とは本来、心願成就を祈り書き写した経文（般若心経・観音経等）を、御本尊様の宝前にお納めし、その祈願を込めた印として頂いたものです。現在は神社仏閣への参拝の証として、御朱印を頂く場合が多いようです。

高尾山は霊山として、又、多摩新四国第六十八番、関東三十六不動尊第八番の霊場の札所としてもその名を知られており、季節限定の御朱印など、様々用意しております。

尚、御朱印は御本尊様の御分身に当る宝印であります。大切に護持頂きまして、益々御本尊様のご利益に浴せられますよう心よりお祈り申し上げます。

新たな年の安寧を祈る

# 正月限定 新春特別祈禱札

令和七年も正月期間（一月一日～一月三十一日）限定で「令和新春特別祈禱札」を授与致します。

近年は自然災害や疫病の流行等、様々な災厄が頻発する時代であります。しかしながら、年が改まり心機一転する正月を迎えるにあたり、種々の災いが少ない、明るい一年となるようにと、特に御祈願申し上げる次第であります。御信徒の皆様方におかれましては、この機会に是非御来山を頂き、新たな年の安寧を共にお祈り下さいますようお願いいたします。

ご祈禱料は一体三萬円となります。願意（お願い事）は「除災開運」のみとなります。御来山当日でのお申込みも可能ですが、正月期間の御護摩受付所は混雑が予想されるため、事前にお申し込みも頂きます。また、御信徒様各位の御都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に宅配でのお取り扱ひもいたしておりますので、ご希望の方は下段の記事をご参照下さい。



## 高尾山薬王院の御護摩札

交通安全 (ステッカー) (車内用札)	御護摩札	御護摩札	御護摩札	特別大護摩	開帳大護摩
巾5.5×長12.5cm	最大巾8.0×長35.5cm	最大巾8.5×長37.7cm	最大巾9.5×長42.3cm	最大巾12.0×長48.5cm	最大巾14.3×長60.5cm
(大) 10,000円 (中) 5,000円 (小) 3,000円	お護摩 3,000円以上	お護摩 5,000円以上	お護摩 10,000円以上	特別大護摩 30,000円以上	開帳大護摩 50,000円以上

- 家内安全(家)
  - 商業繁昌(商)
  - 事業繁栄(事)
  - 交通安全(車交)
  - 車内用札(車交)
  - 神棚用木札
  - 身上安全(身)
  - 災難消除(災)
  - 厄除(厄)
  - 身体健全(体)
  - 当病平癒(病)
  - 開運(開)
  - 良縁成就(縁)
  - 安産成就(安)
  - 入学成就(入)
  - 心願成就(心)
  - 御札(札)
  - 奉納杉苗(杉)
- (一)内の略体をお書き下さい  
お護摩の願事  
お願い事は一体一願意とします。  
併願(二願意)は二万円より受け賜ります。  
但し、五千円で家内安全と商売繁昌のみ併願とさせていただきます。  
お護摩札には年令・生年月日等は入りません。

## 御護摩札及び御守等 郵送・宅配申込方法について

当山では、年間を通して遠方の御信徒様や、高尾山へ直接御参拝することが難しい方々の為に、御護摩札をはじめ各種御守等を、郵送及び宅配にてお受けしております。

お正月御護摩札のお申し込みにつきましては同様に、お手紙やFAX、または「高尾山公式ホームページ」内の「御護摩札 郵送申し込み」からインターネットにて承っておりますので、ぜひご利用頂きますようお願い申し上げます。

また、各種御守りをはじめ、天狗団扇や熊手等のお正月限定の縁起物の郵送をご希望の際には、お電話にてお問合せ下さい。

お問い合わせ先の電話番号、FAX番号につきましては左記の通りとなりますが、ホームページのアドレス及びQRコードにつきましては、二十ページ下段に記載されておりますので、そちらをご参照下さい。

TEL 〇四一・六六六・一一一五  
FAX 〇四一・六六四・一一九九

- 御護摩札のみ
  - 御護摩札及び御守
  - 御守のみ
- お電話やFAXにてご連絡を頂く際には、次のように御護摩係か郵送御守係までお願いいたします。
- 御護摩係まで  
郵送御守係まで



令和七年 乙巳(きのとみ)  
高尾山節分会追儺式参加申込の御案内



二月二日(日)

歳男・歳女 修行時間

第一回	午前七時半
第二回	午前九時
第三回	午前十時半
第四回	正午
第五回	午後一時半
第六回	午後二時半

尚、修行時間の三十分前、もしくは、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。もし時間に間に合わない場合は次回の修行時間にお入り頂きますので、何卒、ご了承下さいませ。

高尾山恒例の節分会(豆まき式)を、二月二日、身上安全、事業繁栄、諸縁吉祥、除災開運等の祈願をこめて開催致します。

御信徒の皆様には、歳男・歳女に参加されますよう御案内申し上げます。

冥加料(祈祷料)三万円

お問い合わせ 節分会追儺式 歳男・歳女係  
電話〇四二(六六一)一一一五

神徳報謝百味飲食供  
御志納のすすめ

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若経六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)  
御志納金 一口 三千元以上



大般若経を守護する十六善神の図

高尾山火渡り祭

(令和七年三月九日 日曜日)

柴燈大護摩供御壇木特別志納御案内

当山では毎年三月第二日曜日に春を招く恒例行事として、祈禱殿火渡り本尊ご寶前にて、高尾山修験道による火渡り祭が盛大に執り行われます。

火渡り祭とは、當山貫首大導師のもと、全国各地の靈山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈禱法要であります。

この浄行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて供される、御本尊・飯繩大権現様の功德を顕す御壇木のご志納を二本一万円にて募っております。

ご信徒の皆様、並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信助を賜りますよう、謹んでお願いを申し上げます。

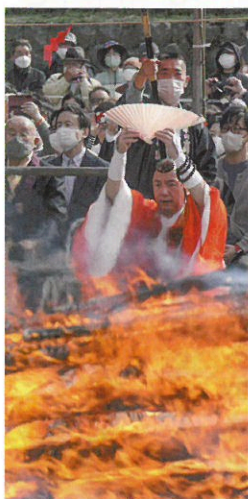
尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院参道に二年間掲示致します。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒部までお問い合わせ下さい。

電話 〇四二(六六一)二二五  
FAX 〇四二(六六一)二九九

大本山 高尾山薬王院 信徒部

祈大願成就 身体健全

高尾 登



上洛雑感(4)

厚木市 荒井 一雄

幸せは

善・徳と積み呼び寄せる  
天を信じて天に頼らず

冬遊曼殊院門跡

松陰花園紅葉黄

莊嚴端莊不動黄

五大門跡曼殊院

歴任山主睡佛房

冬、曼殊院門跡に遊ぶ

書院庭園は黄・紅葉...

威風堂々たり黄不動明王...

京都天台宗五大門跡寺院

の一つ、曼殊院門跡...

歴代門主は仏間に眠る...

迎光祭のお知らせ

令和七年元旦の迎光祭につきましては、昨年に引き続き、薬王院の境内地に祈願所を設けて実施致します。

迎光祭とは初詣にお越しになった大勢の方と初日の出を迎える行事です。僧侶の読経や山伏の法螺により、参列者の無病息災など一年間の安全を祈願して、新年を祝います。

大晦日から元旦にかけて終夜でケーブルカーの運行が行われる予定です。晴天に恵まれると、横浜方面から昇るご来光を拝することが出来ます。



御本尊・飯縄大権現様との御縁を深める

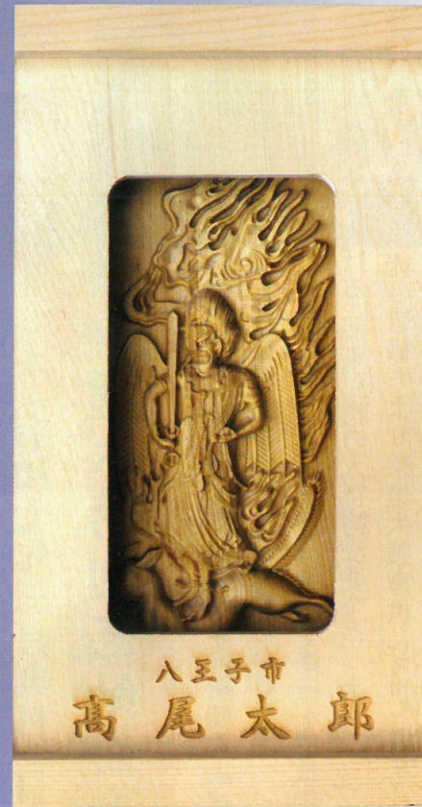
### 大本堂内結縁「内陣御納佛」奉安のご案内

高尾山では、御信徒様と高尾山御本尊・飯縄大権現様との益々の御縁が結ばれますように、大本堂内陣に御本尊様の御魂を宿した「内陣御納佛」の奉安を皆様にお勧め申し上げます。お申し込みになると、御納佛との尊い結縁のしるしとしてご芳名を刻み、大本堂内陣壁面に奉安され、幾久しくご繁栄を祈念するものであります。

また、御納佛が壁面に満たされまると、その都度、内陣格子奥に移し大切に安置されるものであります。

御納佛冥加料 一体 五萬円

お問い合わせ 御護摩受付所  
電話〇四二(六六一)一一一五



高さ13.5センチ 横幅9センチ

### いろは天狗の落し文(終)

健やかなれば 健やかであることは、心身共に健康を保つことです。体調が良ければ、心にも余裕が生まれ、自然と明るくなります。そうした朗らかな心は、他者との良好な関係を築くために欠かせない要素です。

### 人車一体交通安全祈禱 高尾山麓 自動車祈禱殿

正月御祈禱時間  
元日 午前0時より午後四時まで  
二日・三日 午前八時より午後四時まで  
四日〜七日 午前八時半より午後四時まで

交通事故は偶然生ずるものでなく、多くの場合には、運転者並びに歩行者の心構え二つで防止できるものです。心に安らぎを得て、安定した気持ちで運転して頂く事が大事と考えております。年に一度は、高尾山の山伏による人車一体の「おはらい」を受けることをおすすめいたします。複数台をお申し込みの場合には、事前にFAXにて受け付けております。

電話：〇四二(六六一)一一一八  
FAX：〇四二(六六一)一一三五

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)	小金井市 出佐 隆	足立区 千住一 神講 公子	八王子市 山本 千枝子
港 区 鏡 照 院	八王子市 坂本 良実	狭山市 日野岡 保次 進	川崎市 鹿島 市郎
世田谷区 森 謙三	八王子市 阿部 ヨシ子	富里市 藤田 照 森	川崎市 澤田 進
豊島区 神山 洋一郎	八王子市 小池 まり子	中野区 藤田 矢須子	川崎市 保次 進
東久留米市 吉岡 智代	八王子市 川俣 良実	府中市 高尾 講 弘	川崎市 勝 弘
さいたま市 洲崎 透	八王子市 小林 絢子	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
吉川市 飯島 和子	八王子市 坂本 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
川越市 島村 文子	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
前橋市 小林 絢子	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
八王子市 小池 まり子	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
台東区 川俣 良実	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
八王子市 坂本 良実	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
八王子市 阿部 ヨシ子	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
木更津市 山口 晴子	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
鴨川市 亀田 義久	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
比企郡 宮崎 甚三	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
塩竈市 小齋 祥子	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
八王子市 石井 忠明	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
葛飾区 高橋 キミ子	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
練馬区 深谷 薫	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
八王子市 安藤 悦子	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
昭島市 佐々木美津子	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
横浜市 白石 京子	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
熊谷市 大滝 みどり	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
行田市 松本 エツ子	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
深谷市 細野 信子	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘
秩父市 上原 幸江	八王子市 川俣 良実	世田谷区 高野 茂樹	川崎市 勝 弘
高崎市 野口 孝一	八王子市 川俣 良実	葛飾区 高田 茂樹	川崎市 勝 弘

### 薬王院インスタグラム紹介

薬王院では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。これからの様々な写真や動画を沢山アップしていきますので是非ともフォローをお願いします。

下記のQRコードかURLから検索ができます。

TAKAOSAN\_YAKUOIN

instagram.com/takaosan\_yakuoin/

### 高尾山報助成金 御志納のお願い

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報をご送付しております。引き続きご愛読して頂きますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。

### ◆お知らせ

正月から節分までの期間中は、繁忙期につき、蛇滝及び琵琶滝での滝行の指導は行いません。ただし、通常通り個人での滝行を行うことは出来ます。また、同期間中は大師堂での御回向や、不動院での御詠歌、月例写経会も実施されませんことを御了承願います。



# 初詣 心のふるさと 祈りのお山 高尾山

## 一月行事日程

- 一日 迎光祭  
元且特別開帳大護摩供
- 一日〜七日 聖天秘供(聖天堂)
- 十二日、二十四日 弁天秘供
- 八日 仏舍利詣り(仏舍利塔)
- 十七日 蛇滝清龍様御縁日
- 二十一日 飯縄様御縁日
- 神徳報謝百味飲食供 (九時大本堂)
- 二十六日 高尾山とんとんむかし「語り部の会」(十二時半山麓不動院)
- 二十八日 琵琶滝不動尊御縁日  
奥の院開扉供養 (十時奥之院)



**【お願い】**  
お正月三ヶ日は、高尾山麓の国道二十号線は混雑が予想されます。  
高尾山麓の駐車可能な場所が限られておりますので、マイカーでのご参拝はご遠慮ください。

## 新春大護摩奉修特別時間

	1日 (水)	2日・3日 (木)・(金)	4日・5日 (土)・(日)	6日・7日 (月)・(火)	11日~13日 (土)~(月)	19日・26日 (日)	8日以降平日 18日・25日 (土)
午前	0:00						
	2:00						
	4:00						
	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00
	7:30	7:00					
	9:00	8:00	8:00		8:00		
	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:30
午後	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	
	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00		
	1:00	1:00	1:00	1:00	1:00	0:30	0:30
	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00
	3:00	3:00					
	4:00	4:00	3:30	3:30	3:30	3:30	3:30

発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115(代)  
FAX(042)-664-1199  
発行人 犬山秀康  
編集人 菅井倫浩  
印刷 ヒラツカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円

下記のQRコードから高尾山薬王院のホームページにアクセスできます  
<https://www.takaosan.or.jp>  
高尾山薬王院ホームページ




**◆お知らせ**  
★お正月期間中は、御護摩受付所や大本堂周辺において大変な混雑が見込まれます。  
特にお昼前後の御護摩修行には、大勢の御信徒様がお越しになることが予想されますので、混雑回避のために、お時間を調整しての御来山をお勧め致します。